

今を生きる子どもたち

貧困と格差の拡大のなかで

④

「おれ、11月にパパになるんだ。絶対かわいがるし」—マサタカ(17)の目尻は下がりっぱなし。隣で妊娠4カ月を迎えたマミナ(17)通信制高校3年生IIが「家事もお願いね」と笑います。

「中3家出」宣言
マサタカは転居したばかりで友だちが1人もいない学校で中学生生活を始めました。知り合って間もない同級生の母親に、「中3になったら家出する」と宣言。「そのために友だちをたくさんつくるんだ」といいました。中学校ではすぐに「問題児」扱いされるように

なりました。同級生の前で教師に殴られたり蹴られたり。休みがちになり、私服で校内に入って生活指導の教員に追いかけられたこともありました。

放課後、毎日のように同級生の家に入り浸り、その家の母親に、「うちのお母さんはよそのお母さんとは話ができない。働くこともできない。病気になるんだ」と打ち明けました。マサタカの母親と姉と3人、生活保護を受けていました。マサタカはときどき「食べさせて」「泊まらせて」といって、その家で夕食を一緒に食べたり、泊まったりするようになりました。

学校で「問題児」と呼ばれ



2人のアパートのキッチンで

マサタカの住むアパートは「たまり場」となり、生活が荒れた子どもたちが酒やたばこに手を伸ばす空間となりました。万引きの「戦利品」で祝杯をあげる子どもたち。集まるのは、家庭や学校に居場所がない子どもたちでした。

エネルギーをもてあまし、壁に穴をあけたり、公園のトイレのガラスを割ったり。他校の生徒と殴り合いになったこともありました。中2の冬、マサタカが被害者となる事件が起き、「たまり場」は消滅しました。春、マ

サタカは父親のいる町に引っ越していきました。中3の秋になって、「食事がきちんととれていないらしい」という連絡が、人づてにかつての同級生の母親に届きました。父親のもとでの生活も、困難が多いようでした。

父親の建設会社に就職を決めました。

自分の成長実感

就職して親方の家に住み込みで働いていましたが、1年ほどしてアパートを借り、1人暮らしを始めました。食事づくりも掃除も自分でしています。

職人としての道を歩き始めたマサタカ。「仕事が速いって先輩にほめられた」とうれしそうに報告します。まかされた仕事をこなしていくなかで、自分の仕事が評価されることに喜びを感じ、自分の成長が実感できるようになりました。そばにいつもマミナがいました。

「お金の心配はあるけど、愛情の心配はないよ」と、マサタカはいいたそうでした。

(文中仮名。つづく)